

森林環境教育の木工教室でツリー製作

12月も中旬となりクリスマスのプレゼントも話題となっている時節ですが、酒田市の西荒瀬保育園で園児達が「松ぼっくり」を使ったクリスマスツリーに挑戦しました。保育園では平成19年度より当センターとの協働により、「みどりの保育園」という森林環境教育を実施していますが、その中で園児達の創造性の向上を図ることを目的として木工教室を開催しています。

毎年、クリスマスの時期「ドイツウヒ」の松カサを木に見立てて、緑色に着色してから雪が降った様に白色のスプレーで模様をつけます。それを丸太を輪切りにしたスタンドに支柱を付けて設置すれば準備は完成です。

園児達は最初に金色や赤のモールを取り付ける作業から着手します。モールが綺麗に着け終わると次はボンドでビーズを取り付ければクリスマスツリーの完成です。

それぞれが保育園で準備したモールやビーズの中から自分の好きな色や好きな形のビーズを選んで装飾しますが、自分達の個性が良く現れて独創的な作品に仕上がります。

指導にあたってはセンターの職員も園児達の着目点に関心する場面も多く、独創的な発想で個性豊かな人間性を育てていることが良く判ります。

完成したクリスマスツリーを誇らしげに仲間と見せ合ったり、頂上に上手く取りつられた星型のビーズを自慢したりと園児達も自分の作品には愛着も大きい様子で、それぞれの作品を手にしての記念撮影では笑顔で満ちあふれていました。

木工教室の終了後は、雨模様だったので当センターの職員と保育士でキツキ用の宿箱と餌台の設置を行いました。

園児達も野鳥の生態を観察できる様に保育園周辺の見やすい箇所に設置したことから、観察をとおして森林が野鳥や野生動植物にとって大切な温床となっていることを少しでも感じ取ることができたら良いと考えています。

4月には落ち着きのなかった園児達も、森林環境教育をとおして団体行動やルールを守った活動ができる様に立派に成長しています。

今回は1月の下旬にミニコンサートを計画しています。地元のNPO団体と「クロマツの歌」や「庄内米の歌」を一緒に歌う予定です。森林文化の継承者としての心も園児達には引き継いで欲しいと願っています。

